

## 【平成 29 年 5 月の経済報告】

平成 29 年 5 月 24 日

本稿は、マイクロマシン／MEMS 分野を取り巻く経済・政策動向のトピックをいろいろな観点からとらえて発信しています。初冬、平成 29 年 5 月の経済報告をお届けします。

### 1. 全般動向

3 月の C I（速報値・平成 22(2010)年=100）は、先行指数：105.5、一致指数：114.6、遅行指数：117.7 となった（注）。

先行指数は、前月と比較して 0.8 ポイント上昇し、2 か月連続の上昇となった。3 か月後方移動平均は 0.20 ポイント上昇し、6 か月連続の上昇となった。7 か月後方移動平均は 0.71 ポイント上昇し、8 か月連続の上昇となった。

一致指数は、前月と比較して 0.6 ポイント下降となった。3 か月後方移動平均は横ばいとなった。7 か月後方移動平均は 0.42 ポイント上昇し、8 か月連続の上昇となった。

遅行指数は、前月と比較して 1.8 ポイント上昇し、5 か月連続の上昇となった。3 か月後方移動平均は 0.94 ポイント上昇し、8 か月連続の上昇となった。7 か月後方移動平均は 0.61 ポイント上昇し、4 か月連続の上昇となった。

詳細は以下の HP をご参照下さい。

<http://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/di/201703psummary.pdf>

### 2. 各経済指標

#### ◎ 月例報告（内閣府）（平成 29 年 4 月 20 日公表）

日本経済の基調判断

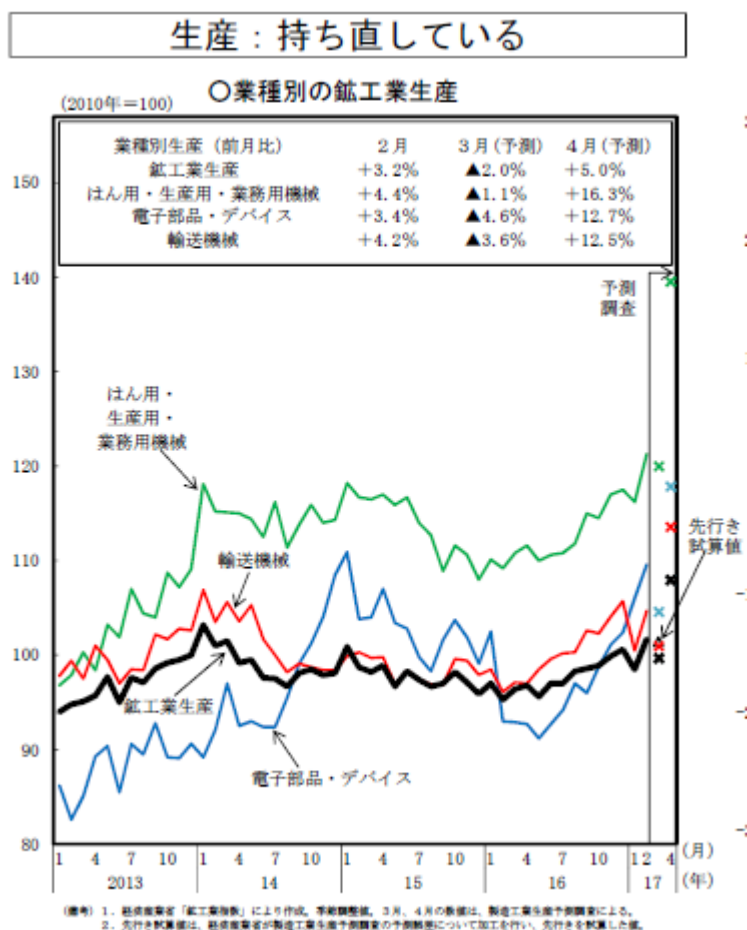
（現状）

- ・景気は、一部に改善の遅れもみられるが、穏やかな回復基調が続いている

（先行き）

先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、穏やかな回復に向かうことが期待される。ただし、海外経済の不確実性や金融資

本市場の変動の影響に留意する必要がある。



詳細は以下のHPをご参照下さい。

<http://www5.cao.go.jp/keizai3/getsurei/2017/04kaigi.pdf>

## ◎ 設備投資

### 平成 29 年 2 月実績：機械受注統計調査報告

(平成 29 年 5 月 17 日内閣府経済社会総合研究所)

機械受注総額の動向をみると、2017(平成 29)年 2 月前月比 1.3%減の後、3 月は同 1.3%増の 2 兆 2,355 億円となった。

需要者別にみると、民需は前月比 12.4%減の 9,163 億円、官公需は同 15.9%増の 2,637 億円、外需は同 2.8%減の 8,462 億円、代理店は同 3.1%減の 1,244 億円となった。

民間設備投資の先行指標である「船舶・電力を除く民需」の動向をみると、2017(平成 29)年 2 月前月比 1.5%増の後、3 月は同 1.4%増の 8,623 億円となった。このうち、製造業は同 0.6%増の 3,529 億円、非製造業(除く船舶・電力)は同 3.9%減の 4,964 億円となった。

## 対前月(期)比

(単位:%)

需要者	期・月	2016年度	2016年		2017年		2016年	2017年		
		(平成28年度)	(平成28年)	10-12月	(平成29年)	4-6月	(平成28年)	(平成29年)	2月	3月
		(実績)	7-9月	(実績)	1-3月	(見通し)	12月	1月	(実績)	(実績)
受注総額		-5.6	-1.1	13.4	-7.9	-0.9	-4.4	-10.0	-1.3	1.3
民需		-3.4	2.5	10.9	-14.4	0.1	6.6	-23.2	13.4	-12.4
〃 (除船電)		0.5	5.5	0.3	-1.4	-5.9	2.1	-3.2	1.5	1.4
製造業		-4.6	1.9	2.7	-4.2	-1.1	0.8	-10.8	6.0	0.6
非製造業(除船電)		4.3	6.2	-1.0	0.0	-9.6	2.1	0.7	1.8	-3.9
官公需		-3.0	8.3	13.5	-1.9	-13.6	-2.9	20.4	-35.4	15.0
外需		-10.2	-8.6	15.5	-2.2	1.1	-12.1	3.2	-1.1	-2.8
代理店		5.9	7.5	-0.1	2.2	-4.0	1.2	-10.4	18.9	-3.1

(備考) 季節調整値による。季節調整系列は個別に季節調整を行っているため、需要者別内訳の合計は全体の季節調整値とは一致しない。

詳細は以下の HP をご参照下さい。

<http://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/juchu/1703juchu.html>

### ◎鋳工業指数調査

【最新プレス情報 平成 29 年 3 分】 (平成 29 年 5 月 17 日発表)

鋳工業指数(生産・出荷・在庫、生産能力・稼働率、生産予測指数)  
～製造業の動きから見る日本の景気～

<概況>

製造工業稼働率指数は、99.8 で前月比 1.6%の低下であった。

製造工業生産能力指数は、94.1 で前月比-0.3%の低下であった。

製造工業生産能力・稼働率指数、平成22年（2010年）=100

	季節調整済指数		原指数		
	指数	前月比	指数	前月比	前年同月比
稼働率	99.8	-1.6	109.8	10.2	3.5
生産能力			94.1	-0.3	-0.7

鉱工業指数、平成22年（2010年）=100

	季節調整済指数		原指数	
	指数	前月比	指数	前年同月比
生産 (速報値)	99.8 (99.6)	-1.9 (-2.1)	112.0 (111.8)	3.5 (3.3)
出荷 (速報値)	98.4 (98.1)	-0.8 (-1.1)	113.9 (113.6)	3.5 (3.2)
在庫 (速報値)	109.7 (109.8)	1.5 (1.6)	101.9 (102.0)	-4.0 (-3.9)
在庫率 (速報値)	111.5 (111.9)	0.2 (0.5)	94.0 (94.3)	-5.1 (-4.7)

<電子部品・デバイス工業、電気機械工業>

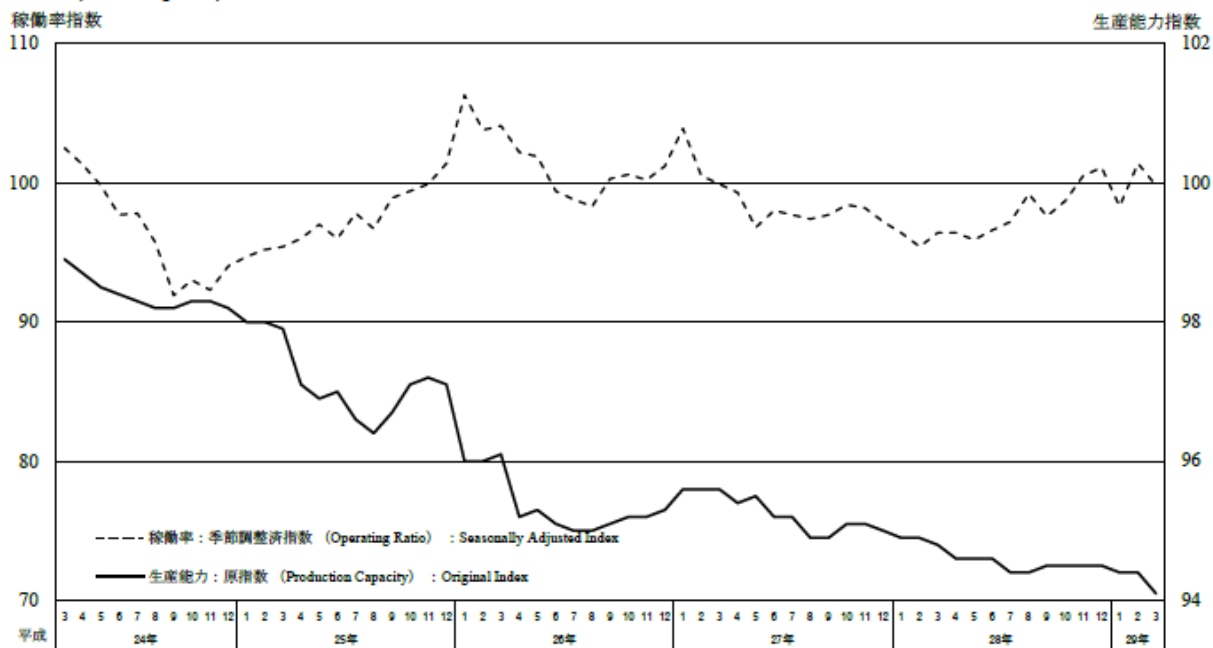
（１）３月の製造工業稼働率指数は、99.8で前月比▲1.6%の低下であった。業種別にみると、輸送機械工業同▲3.0%、電子部品・デバイス工業同▲3.4%、鉄鋼業同▲5.1%等が低下し、窯業・土石製品工業同3.2%、石油・石炭製品工業同2.8%、はん用・生産用・業務用機械工業同0.6%等が上昇した。

（２）３月の製造工業生産能力指数は、94.1で前月比▲0.3%の低下であった。業種別にみると、石油・石炭製品工業同▲7.0%、輸送機械工業同▲0.4%、電子部品・デバイス工業同▲0.2%等が低下し、化学工業同0.1%、窯業・土石製品工業同0.1%が上昇した。

### 製造工業生産能力指数・稼働率指数の推移(グラフ)

Historical Data (Graph) for Indices of Production Capacity and Operating Ratio

(平成22年基準)  
(2010 average=100)



製造工業生産能力指数・稼働率指数の時系列表  
Historical Data for Indices of Production Capacity and Operating Ratio

平成22年 = 100  
index, 2010 = 100

年 月	稼働率 Operating Ratio				生産能力(未) Production Capacity				Year and Month	
	季節調整済指数 Seasonally Adjusted Index		原指数 Original Index		原指数 Original Index					
	前月(期)比 %Change From Previous Month(Quarter)		前年 (同月期)比 %Change From Previous Year		前月(期)比 %Change From Previous Month(Quarter)	前年 (同月期)比 %Change From Previous Year				
平成 26 年			101.3	4.1	95.3		▲ 1.9	C.Y.	2014	
27			98.7	▲ 2.6	95.0		▲ 0.3	C.Y.	2015	
28			97.7	▲ 1.0	94.5		▲ 0.5	C.Y.	2016	
平成 26 年度			100.6	0.6	95.6		▲ 0.5	F.Y.	2014	
27			98.0	▲ 2.6	94.8		▲ 0.8	F.Y.	2015	
28			98.6	0.6	94.1		▲ 0.7	F.Y.	2016	
平成28 年	I 期	96.1	▲ 1.8	98.3	▲ 2.9	94.8	▲ 0.2	▲ 0.8	Q1	2016
	II 期	96.3	0.2	94.7	▲ 2.6	94.6	▲ 0.2	▲ 0.6	Q2	
	III 期	98.0	1.8	98.2	▲ 0.5	94.5	▲ 0.1	▲ 0.4	Q3	
	IV 期	100.1	2.1	99.6	1.8	94.5	0.0	▲ 0.5	Q4	
平成29 年	I 期	99.8	▲ 0.3	101.9	3.7	94.1	▲ 0.4	▲ 0.7	Q1	2017
平成28 年	1月	96.4	▲ 0.8	92.9	▲ 5.4	94.9	▲ 0.1	▲ 0.7	Jan.	2016
	2月	95.4	▲ 1.0	95.9	▲ 2.3	94.9	0.0	▲ 0.7	Feb.	
	3月	96.4	1.0	106.1	▲ 0.9	94.8	▲ 0.1	▲ 0.8	Mar.	
	4月	96.4	0.0	92.9	▲ 4.2	94.6	▲ 0.2	▲ 0.8	Apr.	
	5月	95.9	▲ 0.5	91.0	▲ 1.2	94.6	0.0	▲ 0.9	May	
	6月	96.6	0.7	100.1	▲ 2.3	94.6	0.0	▲ 0.6	Jun.	
	7月	97.2	0.6	100.5	▲ 4.5	94.4	▲ 0.2	▲ 0.8	Jul.	
	8月	99.2	2.1	93.2	4.5	94.4	0.0	▲ 0.5	Aug.	
	9月	97.6	▲ 1.6	100.9	▲ 0.9	94.5	0.1	▲ 0.4	Sep.	
	10月	98.7	1.1	97.9	▲ 1.8	94.5	0.0	▲ 0.6	Oct.	
	11月	100.5	1.8	101.5	4.4	94.5	0.0	▲ 0.6	Nov.	
	12月	101.1	0.6	99.3	3.0	94.5	0.0	▲ 0.5	Dec.	
平成29 年	1月	98.3	▲ 2.8	96.2	3.6	94.4	▲ 0.1	▲ 0.5	Jan.	2017
	2月	101.4	3.2	99.6	3.9	94.4	0.0	▲ 0.5	Feb.	
	3月	99.8	▲ 1.6	109.8	3.5	94.1	▲ 0.3	▲ 0.7	Mar.	

※ なお、詳細は以下の HP をご参照下さい。

[http://www.meti.go.jp/statistics/tyo/iip/result/pdf/press/b2010\\_201703nj.pdf](http://www.meti.go.jp/statistics/tyo/iip/result/pdf/press/b2010_201703nj.pdf)

## 2. その他の動向

### 1) 電子部品グローバル出荷統計

一般社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA) は、電子部品グローバル出荷統計の最新版月別出荷金額 (2017. 04. 28 発表) を公表しました。

- ・ 2017 年 2 月グローバル出荷額は 3, 117 億円、前年比 109. 4%となり、前年比プラスとなった。
- ・ 品目別出荷は受動部品 (前年比 103. 3% 1, 043 億円)、接続部品 (同 117. 4% 903 億

円)、変換部品(同 109.9% 670 億円)、その他の電子部品(同 94.8% 499 億円)となった。

・地域別出荷は、日本(前年比 103.3% 784 億円)、米州(同 95.0% 298 億円)、欧州(同 97.8% 310 億円)、中国(同 120.8% 1,019 億円)、アジア・その他(同 114.7% 709 億円)となった。

### 【月別出荷金額】

電子部品出荷額(億円)	2016年度						2016年度累計		
	12月		1月		2月		4月-2月		
	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)	
世界計	3,352	104	3,220	102	3,117	109	35,128	94	
(日本)	810	103	808	112	784	103	8,442	98	
品目別	変動部品	1,127	107	1,057	98	1,043	110	11,973	97
	コンデンサ	758	106	711	98	715	110	8,087	97
	抵抗器	118	104	116	105	116	111	1,275	98
	トランス	35	98	34	90	34	98	406	100
	インダクタ	210	114	191	98	173	115	2,163	95
	その他	3	99	3	102	3	113	39	96
	接続部品	932	112	907	116	903	117	9,533	99
	スイッチ	388	104	400	103	391	104	4,192	94
	コネクタ	538	120	502	129	507	130	5,287	102
	その他	5	126	4	113	5	125	52	105
	変換部品	754	105	749	108	670	109	7,661	95
	音響部品	184	94	201	123	152	95	1,758	86
	センサ	342	104	328	100	328	114	3,645	98
	アクチュエータ	226	117	218	111	189	115	2,257	97
	その他の電子部品	538	89	506	82	499	94	5,961	84
	電源部品	218	95	220	101	215	95	2,269	88
高周波部品	320	85	285	72	284	93	3,692	82	

### 【地域別出荷金額】

地域別出荷金額(億円)	2016年度						2016年度累計	
	12月		1月		2月		4月-2月	
	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)
グローバル	3,352	104	3,220	102	3,117	109	35,128	94
日本	810	103	808	112	784	103	8,442	98
米州	279	95	316	102	298	94	3,306	93
欧州	256	100	330	104	310	97	3,271	98
中国	1,279	103	1,053	91	1,019	120	12,579	89
アジア他	729	114	715	109	709	114	7,566	99

#### ※電子部品グローバル出荷統計について

- ・本統計は、電子部品部会で実施している「電子部品企業のグローバル動向調査」を基に作成しております。
- ・本調査は、参加70数社から提出された、連結ベース(グループ間取引調整後)の出荷額データをとりまとめており、地域に関するデータは、原則として該当部品が消費される地域への出荷になります。  
なお、合計値につきましては、単位未満切り捨てのため、一致しない場合がありますので、ご了承ください。

※ なお、詳細は以下の HP をご参照下さい。

[http://home.jeita.or.jp/ecb/information/info\\_stati.html](http://home.jeita.or.jp/ecb/information/info_stati.html)

## 2) MEMS 関連最新調査

米国調査会社マインドコマース(Mind Commerce)の調査レポート「MEMS(微小電気機械システム) 2017 - 2022年：コンポーネント、製品、用途、垂直市場」は、MEMSのエコシステム、企業、製品、サービスなどの市場を査定している。2017-2022年のMEMS市場の機能、機器、用途、垂直市場を予測し、世界市場と地域毎に提供している。

内容は、

- \* 内蔵システムと MEMS
- \* MEMS 市場促進要因
- \* 企業分析
- \* MEMS 市場予測

となっています。

サマリーは以下の HP をご参照下さい。

<http://www.dri.co.jp/auto/report/mindc/mcmems.html>

以上